



小さな苦難の時

暗唱
聖句

「怒ることがあっても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで怒ったままでいてはいけません」

(エフェソ 4:26、新共同訳)

「怒ることがあっても、罪を犯してはならない。憤ったままで、日が暮れるようであってはならない」(エペソ 4:26、口語訳)

今週の
聖句

マタイ 7:5、エフェソ 1:7、フィリピ 2:4～8、エフェソ 4:26、27、ヤコブ 1:19、20、コロサイ 3:19、マタイ 7:12

安息日
午後
6/1

今週のテーマ

最良の家庭でさえ、争いの時、対立の時に直面するでしょう。それは、墮落した世界における現実の一つにすぎません。例えば、だれがゴミを出す順番か、あなたの十代の娘が宿題を終えたかどうか、あなたの息子が日課を済ませたかどうかといった単純なことは、通常、さしたる混乱もなく解決できます。しかし次のような問題は、家庭生活を崩壊させる恐れがあります。1人の女性の結婚生活と健康を破壊しかねない虐待と操作をする義母、子どもたちを虐待する精神疾患を抱えた父親、宗教的教育をすべて捨てて好き勝手な生活にふける息子、薬物乱用者となる娘……。

私たちは新約聖書の中で、互いに愛し合いなさい(ヨハ 13:34、ロマ 12:10)、平和に仲良く暮らしなさい(ヘブ 12:14、ロマ 15:5)、互いに忍耐強く、情け深く、心優しくありなさい(1コリ 13:4)、ほかの人を自分より優れていると考えなさい(フィリ 2:3)、互いの荷を負い合いなさい(エフェ 4:2)と繰り返し言われています。もちろん、こういったことはみな、自分の家族に対してであっても、口で言うほど簡単なことではありません。

私たちは今週の研究において、(とりわけ家庭における)小さな苦難の時を緩和するのに役立ついくつかの方法について考えます。

問1 マタイ7:5と箴言19:11を読んでください。他者との対立を避けるのに役立つ二つの重要な原則とは、どのようなものですか。

箴言の記者は、非常に鋭い観察をしています——「いさかひの始めは水の漏り始め。裁判沙汰にならぬうちにやめておくがよい」(箴17:14)。ひとたび始めると、対立は終わらせるのがとても難しくなることがあります。ローマ14:19によれば、私たちは二つのこと(平和に役立つことと互いの向上に役立つこと)を追い求めることによって対立を防げるといいます。これらの原則は、家族の一致にとって、どれほど一層重要でしょうか。

時として、あなたが対立の責任を認めるとき、それが相手方を軟化させるかもしれません。一歩退いて、戦うに値するかどうか、考えてみてください。箴言は、「悟りは人に怒りを忍ばせる、あやまちをゆるすのは人の誉である」(箴19:11、口語訳)と述べています。同時に、このことがあなたの3日間の生活の中でどのような違いをもたらすか、考えてみてください。もっと良いことに、5年、10年なら、どのような影響を及ぼすでしょうか。例えば、どれほど多くの結婚生活が、今ならささいと思える問題のために、大変な時期を過ごしてきたことでしょうか。

対立を長引かせないように、あなたは、ほかの人、伴侶、子ども、友人、同僚と話す際に、議論する問題をはっきりさせ、目の前の話題からそれないようにできます。対立はしばしば、その対立を引き起こした問題が怒りの言葉の中でうやむやになるときに悪化します。それと同時に、過去の問題や過去の心の傷が、ごちゃ混ぜの話に投げ込まれるのです(これは、とりわけ結婚生活にとって致命的になる可能性があります)。話し合いをより良く、より柔らかく始める一つの方法は、まず相手との関係を肯定することです。あなたが相手の人とあなたがたの関係を深く気遣っていることを、相手に伝えましょう。ひとたび肯定的な感情を述べたなら、目の前の問題に移ることができます。しかし、「でも」という言葉は使わないように注意してください。肯定的な思いを述べたあとに「でも」と言うことは、たった今あなたが述べたことを無効にしまいます。あなたの感情をひとたび伝えたら、相手の考え方に耳を傾け、彼／彼女が言ったことをじっくり考え、それからようやく、すべての人の利益を心に留めた解決方法を提案してください(フィリ2:4、5)。

◆ 今となっては、実に愚かしく、意味のないように思える対立を、いくつか思い返してください。それらの経験から、少なくともあなたの側で、同様のことを再び起こさないために役立つどのようなことを学べますか。

安息日と同様、結婚は人類に与えられた神の賜物であり、それはエデンにさかのぼります。そして、私たちセブンスデー・アドベンチストは、安息日と結婚に対して魂の敵が行ったこと（今でも行っていること）を知っています。時として、最高の結婚生活でさえ、対立に苦しむのです。

以下の内容は、夫婦が同様の問題を乗り切るのに役立ついくつかの原則です。

問2 エフェソ 1:7 を読んでください。ここには、あらゆる結婚生活の一部となるべきどんな重要な原則がありますか。

私たちは赦すことを身につける必要があります。とりわけ、あなたの伴侶が赦しを受けるに値しないときに、必要です。赦しに値する人なら、だれでも赦せます。実際、それはほとんど赦しではありません。真の赦しは、主がキリストを通して私たちに赦してくださるように、赦しが当然でない人を赦すことです。私たちは同じようにする必要があります。さもないと、私たちの結婚生活は、もし続くとしても（そうなる可能性は低いものの）苦行のようになるでしょう。

問3 ローマ 3:23 を読んでください。同様にどんな重要な原則が見いだされますか。

私たちは、罪人と結婚していること、つまり、精神的、肉体的、霊的に、多少なりとも傷を受けた存在と結婚していることを受け入れなければなりません。そのことに慣れてください。あなたの伴侶の欠点を受け入れてください。祈ってその欠点を突き抜けてください。あなたはその欠点を我慢しなければならいかもしれませんが、ひどく気にする必要はありません。ひどく気にすれば、その欠点があなただけを食物にしてしまいます。聖く、完全なる神は、キリストを通して、私たちをあるがままに受け入れてくださいます。聖く、完全とは言いがたいあなたは、伴侶に対して同じようにしなければなりません。

◆ フィリピ 2:4～8 を読んでください。ここには、結婚生活においてだけでなく、悪化する可能性のあるすべての関係において助けとなる重要な原則があります。私たちは、どんな原則を用いることができますか。

これまでに怒りを体験したことのない人がいるのでしょうか。怒りをより激しくさせるものは、怒りが家族に向けられたときです。怒りは赦しを拒み、家庭や家族、人間関係全般に大きな痛みと苦しみをもたらす毒に変わる可能性があります。

問4 エフェソ 4:26、27 とコヘレト 7:9 を読んでください。私たちは、感情としての怒りと罪としての怒りを、いかにバランスを取って理解することができますか。違いは何ですか。

問5 ヤコブ 1:19、20 でヤコブは、可能なときにはいつでも（しかし、とりわけ家族の行動、態度、言葉が私たちが怒らせるときに）適用すべきどのようなことを述べていますか。

もしあなたが何かに怒っているなら、その怒りを暗雲のようにあなたの生活の上に覆いかぶせるのではなく、何か前向きなものに変えてください。あなたを傷つけ、虐待する人のために祈ってください、彼らを赦し、彼らの祝福になってください。最初のうち、たぶんそれは容易でないでしょうが、あなたがそう決心し、続けるなら、神は残りのことを引き受けてくださいます。

時として怒りの根は、私たちが育った家庭の中から生じます。怒りっぽい人は、しばしば怒りっぽい家庭の出身です。なぜなら、彼らは手本となる人物から学び、同じ行動を自分の生活の中で続け、結果的にそれを子どもたちに伝えるからです。時として怒りは、満たされない欲求の結果かもしれませんし、カインの場合のように、兄弟殺しにつながった嫉妬から生じるのかもしれません。

あなたには怒るべき正当な理由があるかもしれませんが、それを怒り続ける言い訳として用いないでください。怒りを否定したり、正当化したりしないでください。その代わりに、前向きな形で怒りに対処できるよう、神に助けを求めましょう。使徒パウロは、良い助言を与えてくれています——「悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい」（ロマ 12:21）。

◆ 私たちにはみな、心が痛むほどに怒りを覚えるものがあります。そして場合によっては、そのように怒ることが正当化されるかもしれません。問題は、神の力をいただいて、私たちや私たちの周りにいる人たちが、その怒りによっていかに惨めにならないかです。

時として、未解決の対立や怒りは、非常に否定的で破壊的な力となり、虐待関係に陥ることさえあります。虐待は、身体的なもの、言葉によるもの、感情的なもの、性的なものなど、さまざまな形を取ります。しかしどのような形であれ、虐待は神の国の中心的原則、無私無欲な愛に反するものです。

問6 Iヨハネ4:7、8とコロサイ3:19には、人間関係に関するどんな重要な教えがありますか。

「夫たちよ、妻を愛しなさい。つらく当たってはならない」(コロ3:19)。原文のギリシア語における「つらく」という言葉は、だれかが相手に怒ったり、冷淡であったりして、継続的な心の痛み、激しい敵意、相手に対する憎悪の表情を生じさせることを指します。パウロの主張はとても明瞭で、伴侶は敵意を持ったり、暴力的であったりしてはならないということです。感情的、性的、身体的虐待は、クリスチャンの夫や妻にとって、容認できる行動ではありません。そうではなく、受け入れることができるのは、伴侶を愛することです。パウロはまた、愛は忍耐強く、情け深く、ねたまず、自慢せず、高ぶらず、礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かず、不義を喜ばず、真理を喜ぶ、と明らかにしています。愛は常に守り、常に信じ、常に望み、常に耐えます。愛の性質はいずれも、どのような形の虐待であれ、ほんのわずかでさえも容赦したり、容認したりしません。

健全な関係とは、両者が守られている、安全であると感じ、その関係の中で怒りが健全な形で処理され、互いに仕え合うことが普通であるような関係のことです。しばしば虐待の犠牲者たちは、あたかも虐待者を挑発している責任が自分たちにあるかのように、または自分たちがどういふわけか虐待を受けるに値するかのように、罪悪感を抱きます。虐待者は極めて支配的で、しばしば巧みに犠牲者に責任を感じさせるのです。実際には、他者によって虐待されるべき人などいませんし、虐待の選択と行動の責任を負うのは虐待者です。ありがたいことに、聖書は虐待の犠牲者のために、罪悪感ではなく、慰めを与えています。問題が処理しがたい状況においては、外部の助けを求めることを恐れるべきではありません。

◆ 女性への虐待を容認している文化があるというのは、なんと残念なことでしょう。なぜクリスチャンは、文化が何を許しているかにかかわらず、この種の行為に陥るべきではないのですか。

問7 「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これこそ律法と預言者である」(マタ7:12)。家庭の内外で、あなたがこの原則を適用できるあらゆる状況について、あなた自身の体験の中で考えてください。それがどのような時なのかを書き、信仰によってあなたがどれくらいそのとおりにできるかを判定してください。

ヘブライ人への手紙の記者は、「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません」(ヘブ12:14)と勧告しました。私たちが必要な対策をすべて講じて、私たちが傷つけた人たちの中には、耳を傾けず、変わらない人がいるでしょう。謝罪する人もいるかもしれませんが、謝罪しない人もいるでしょう。いずれにしても、先に述べた赦しの旅に出ることが、とりわけそれが家族である場合、得策です。

実際に、赦しは、とりわけ家庭において、対立解消に必須なものです。ある人が私たちに対して罪を犯すとき、神の敵は、私たちとその人の間に壁を築いたり、キリストが私たちを愛されたように、私たちがその人を愛せないようにする障害物を置いたりします。赦しは、その障害物を避けるために私たちができる選択なのです。

「わたしたちは、自分が赦すから許されるのではない。わたしたちが赦すように赦されるのである。すべての赦しは、なんの功もなくして得られる神の愛に基づいている。しかし他の人々に対するわたしたちの態度は、わたしたちがその愛を自分のものにしたかどうかを示すのである。キリストが、『あなたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう』と言われたのは、そのためである(マタイ7:2)」(『希望への光』1281ページ、『キリストの実物教訓』227ページ)。

その一方で、私たちに落ち度があるとき、他者との破綻した関係の修復に努める必要があります。それには、相手のところへ行き、自分のしたことを後悔していると告げ、赦しを乞うことが含まれます。それが、イエスの言われたことです——「だから、あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい」(マタ5:23、24)。私たちが傷つけた人が私たちに謝罪し、赦しを求めるときというのは、うれしいものです。同様に、私たちが同じような配慮を他者にするというのも、うれしいことです。

◆ あなたが赦されるべきあらゆることについて考えることは、他者を赦すことを身につけるうえで、いかに助けとなりますか。

「家庭を治める時に、両親が一致していないということがよくある。子どもたちと一しょにいることが少なく、彼らの特徴や気質を知らない父親は厳格できびしい。彼は自分の気分を押えずに、感情でしかる。子どもはそのことをよく知っていて、言いつけ通りにしない。そして罰を受けると怒りで満たされる。母親は子どもが悪いことをする時、時には大目に見、時にはきびしく罰する。子どもは何を予期しているのかわからないので、罰を受けずにどこまで悪いことができるかやってみようという誘惑を受ける。こうして悪の種類がまかれ、それが芽を出して実を結ぶ」（『希望への光——クリスチャン生活編』748 ページ、『アドベンチスト・ホーム』352 ページ）。

「家庭は最も純粋な高貴な愛情の中心でなければならない。平和、一致、愛情、幸福といった尊いものが、家族をつくり上げている1人ひとりの者の心の中にとどまるように、毎日忍耐強く育てなければならない。愛の植物は、注意深く栄養を与えなければ枯死してしまう。魂の中によい原則の植物を繁茂させなければ、それを大切に育てなければならない。サタンが心の中に植えつける羨望、嫉妬、邪推、悪口、短気、偏見、利己主義、貪欲、虚栄は抜き去らなければならない。こういう悪いものを魂の中にとどめておくと、それは実を結んで、多くの人を汚す。愛の尊い実を枯死させ、魂を汚す有毒な植物を育てて魂を汚す者が非常に多い」（同上 682 ページ、同上 211 ページ）。

話し合いのための質問

- ① 結婚に関する記事から引用した次の文を読んでください。

「『この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかったが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです』（ヘブ 4:15)。人間の心を最もよく理解するために、キリストが私たちの状況に身を置いてくださったように、私たちは結婚相手に対して同じことをすべきです。特定の状況や特定の危機を、あなた自身の視点からだけ見るのではなく、あなたの伴侶の視点からも見るように努めてください。彼／彼女が状況をどう見ているのか、その状況は彼／彼女にどう影響しているのか、なぜ彼／彼女はそのように感じるのか、といったことを理解してください。この原則は、難しい状況を緩和することにおいて、とても役に立つ可能性があります。私たちはこの原則を、他者と対立する可能性のあるすべての領域に、どのように適用することができますか。

- ② 安息日のクラスで、「怒りは常に罪なのか」という疑問に答え、あなたの考えを説明してください。